

出題分析			
試験時間	120 分	配点	200 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】例年通り、すべての問題がマークシート形式であった。出題分野も近年とそれほど変わらない。これまで特徴とみられてきた長大な問題文の問題は昨年度につづき今年度も姿を見せなかった。解答に要する計算量も適切な工夫をすれば多くなく、標準的な学習をきちんと積み重ねていけばまずまずの得点が望めるセットとなっている。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	小問集合 (場合の数・数列)	(1)いくつかの色で立方体の面を塗り分ける方法の場合の数を求める問題。回転により一致するものは同一視する。数え上げの基準をうまく設定できるかが鍵となる。類題の経験がないと厳しいかもしれない。 (2)数列の第 n 項と和の関係式から一般項を導く問題。誘導に沿ってゆけば、基礎的なステップを積み重ねて完答することができる。	標準
II	図形と方程式・積分法	2つの放物線に接する円について考える問題。方程式に文字係数が含まれるようなこともなく、平易な出題である。適切な図形的考察を行うことで計算量を減らすことができる。	やや易
III	微分法・積分法	定積分を含む2つの方程式を満たす関数を決定する問題。求める関数の条件について不備があったが、訂正が示された。2次関数と1次関数について考えるので、係数に文字を設定して同次数の係数同士を比較すればよい。	標準
IV	空間図形	底面が長方形の四角錐について考える問題。大学入試よりは難関高校の入試でよく見かける種類の問題である。適当な図形の相似に着目したり三平方の定理を活用したりして解けばよい。	標準

設問別講評			
V	確率	フランス式のジャンケンにおける戦略と勝つ確率の関係を問う問題。手を限定したいくつかの場合について考えるが、最初に手の間の勝敗すべてを総当たりの表にしておくともスムーズに解答できるだろう。	やや易

合格のための学習法
<p>今年度は難易度としてはそれほどの難問が出題されている訳ではない。分量については概評では「計算量も適切な工夫をすれば多くなく」と記したが少ないという訳でもない。例年の計算量はより多く、計算の巧拙が得点に大きく影響するものと思われる。普段の学習から効率のよい計算方法の習得を心がけてほしい。また、手法の選択も意識してほしい。たとえば図形的な考察を適切に行うことで途中の計算を簡略化できることは少なくない。今年度は見られなかったが、本学部の数学入試問題の特徴の1つとして、問題文が長く題意を把握するのに時間を要する問題が出題されることが挙げられる。また、過去にはかなり難度の高い問題が出題されたこともある。過去問の演習などを通じて、そのような問題からもある程度得点できるよう対策をとっておくとよいだろう。</p>